

20:19 律法学者、祭司長たちは、イエスが自分たちをさしてこのたとえを話されたと感じいたので、この際イエスに手をかけて捕えようとしたが、やはり民衆を恐れた。

20:20 さて、機会をねらっていた彼らは、義人を装った間者を送り、イエスのことばを取り上げて、総督の支配と權威にイエスを引き渡そう、と計った。

20:21 その間者たちは、イエスに質問して言った。「先生。私たちは、あなたがお話しになり、お教えることは正しく、またあなたは分け隔てなどせず、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。

20:22 ところで、私たちが、カイザルに税金を納めることは、律法にかなっていることでしょうか。かなっていないことでしょうか。」

20:23 イエスはそのくらみを見抜いて彼らに言われた。

20:24 「デナリ銀貨をわたしに見せなさい。これはだれの肖像ですか。だれの銘ですか。」彼らは、「カイザルのです。」と言った。

20:25 すると彼らに言われた。「では、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」

20:26 彼らは、民衆の前でイエスのことばじりをつかむことができず、お答に驚嘆して黙ってしまった。

「カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい」とイエス様は回答なさいました。カイザルすなわちこの世の秩序に対しても責任を果たし、また神にも責任を果たしなさい

ということです。

では実際にはどちらに優先順位があるのでしょうか。ここでイエス様が前提となさっているのは、優先順位ではなく、その両立が可能であるということでしょう。社会の秩序と責任のために生きることは神様のためでもあります。また神様の救いを伝え、みこころを行うことは社会のためにもなるのです。

またお金に関して言うなら、神様の働きはお金で大いに力づけられますが、しかしお金で左右されるものではありません。次元が違うのです。主の栄光を表わしつつ、この社会の役にも立つ道を探り求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

